

路地の魅力と都市の再生 ～碧南市大浜地区のとりくみ～

石田 富男

路地の魅力が見直されている。災害対策の面から危険視され、拡幅によってどんどん失われてきた路地が、美しい日本の原風景の1つとして、また人間味あふれる空間として再評価され、法善寺横丁のように再生されたものもある。国もこのような動きを受けて、「路地や細街路のたまたまの保全・再生」を地域再生の支援プログラムに組み込んだ。碧南市大浜地区でもこのテーマに取り組み、多様な展開をすすめている。



第3回全国路地サミットが開催された神楽坂の路地。ピンコロ石の灰色が品格と厳粛さを示し、花柳界の黒塀とあいまって路地に独特の雰囲気を与えている。

第三回全国路地サミット

二〇〇五年一月、「もてなしの路地、しつらえの路地」路地からまちの未来を考える」をテーマに第三回全国路地サミットが東京都新宿区の神楽坂にて開催された。主催は全国路地のまち連絡協議会（路地協）。

路地の保全といえば火事で焼失した路地を再生した大阪の法善寺横丁が有名だ。第一住宅建設協会の発行する「city & life no.76」（二〇〇五年六月発行）では「路地と横丁空間からの都市再生」が特集され、東京、大阪、京都の路地が取り上げられている。路地協もこれらの地区が中心で東海地区からの参加は碧南市が初めて。終了後の交流会では全国の人々に大浜の路地紹介も行われた。サミットでの報告によると路地にもいろいろいるタイプがあるが、大浜の路地は生活路地として地域の景観資源と調和しており、その魅力は他地区にもひけをとらないと思われた。

歩いて暮らせるまちづくり

碧南市大浜地区は、古くから大浜湊の湊町として開けたという歴史を有するところであり、大きな寺院が多く点在する。とともに、味噌・味噌などの特産品を生産する工場などの蔵が点在している。地区内には多くの路地があり、寺院、蔵など伝統的なたたずまいと一体となり、心地よい雰囲気を形成している。



大浜の路地。幅員は2mに満たず車は入ってこれない。こんな路地が多数ある。黒塀、黒壁が大浜らしさを形成している。

湊、寺、蔵、路地がこのまちの特徴であり、昔ながらの街並みを残している地区であるが、車の利用が不便であることや接道条件から建替えができないなどから人口が減少し、商業機能も衰退していった。このような中で、二〇〇〇年三月に国の「歩いて暮らせる街づくり」のモデル地区として全国二十箇所の一つに選定されたことをきっかけとして、様々な主体がかかわるまちづくりが始まった。

二〇〇〇年秋からはじまった「大浜でらまちウォーキング」はすでに六回を数えるが、様々な団体がいろいろ催しをまちのあちこちで開催し、多くの参加者でにぎわう。まちなかに俳句が飾られたり、個人宅で自分のコレクションを公開したりと見所は多いが、特筆すべきは小学校の総合学習との連携であると思う。寺院や神社などで発表する子ども達の勇姿をみるため、家族はもちろん地域の人が大勢集まり、やさしいまなざしをむける。これらを見て歩くともち全体を歩いてしまっただけだ。

本地区では建築士会の人たちが熱心にまちづくりに関わっている点も特筆できる。私が大浜地区のことを知ったのは建築学会で見学会を行ったことだが、この時も建築士会の人たちがまちを案内してくれた。大浜でらまちウォーキングでも街角フォトクイズなどを実施し、まちの魅力を紹介している。今年度は「路地」をテーマに開催。「迷路みたいだったし、

昔っばい雰囲気懐かしい気もした」「安心して歩ける」「これからも残してほしい」といった感想が聞かれた。

路地の保全に向けた合意形成

路地については、そのたたずまいがよいという評価がある一方で、車が利用できずに不便、地震や火災などの際に心配などの声もある。このような中で地域住民の合意形成を図るために取り組んでいるのが全国都市再生モデル調査として選定された「路地のたたずまいの保全推進に向けた合意形成調査」である。

建築基準法では、道路は四メートル以上とされており、四メートルに満たない道にしか接しない場合は、四メートルまで拡幅することが求められてきた。その理由も防災が大きな理由であり、路地のたたずまいを構成する重要な要素である狭い幅員のままにしておくためには、別の方法で安全性を確保する必要がある。また、路地のたたずまいは路地に面した塀や建物のデザインが重要であり、大浜

の特徴である黒塀や黒壁を保全することとあわせて行っていく必要がある。

このような難しいテーマに対し、まず、地域住民に路地の魅力を再認識してもらおうと行ったのが、先に紹介した「路地」をテーマとしたフォトクイズであり、さらに「路地を活かしたまちづくりシンポジウム」で全国の取組み紹介などを行うとともに、子どもを対象に「路地のあるまち・大浜の未来を考えようワークショップ」を開催した。また、合意形成の方法として、地区全世帯に対するアンケート調査とともに、「路地を考えるワークショップ」を開催している。これらは、現在進行中であり、合意形成までには様々な課題が予想されるが、ワークショップには多様な人々が参加して熱心な意見交換が行われており、興味深い。

魅力的な路地を有するまちは多い。これからのまちづくりの方向の一つとして「路地」は重要なキーワードになるのではないだろうか。大浜の取組みが各地に広がっていくことを期待したい。

街角フォトクイズ

12の写真が地図上の12のポイントのうちのどこかを当てるクイズ。地図を片手にまちを歩いてもらおうというものだが、気軽に参加してもらえるよう12のうち6つが正解であればくじが引けるようにしている。地域住民の人達にまちの魅力を再発見してもらう方法として、他地区でもおすすめしたい。



社団法人 愛知建築士会碧南支部
10月16日「大浜でらまちウォーキング」催し物のご案内
会場：旧商工会議所 正産軒東側

1. 全国都市再生モデル調査・街角フォトクイズ（無料）
※このフォトクイズは、全国都市再生モデル調査の一環として調査を効果的に実施します。
2. 建築相談（無料）
建築士建築相談を受け付けます。

豪華商品が当たる街角フォトクイズ
5つの写真のAからLの場所は、下の地図にある20ヶ所のうちのどれかです。正解する数が多いほど、豪華品に当たります。
※このフォトクイズは、参加の場から、注意しながら、くじを引く仕組みです。
1. 2階以上の建物には、正解として1階から4階までの写真が取り扱われます。
※、裏面が写った場合は、終了します。
1等 旅行カメラ、DVDラジカセ 2等 CD＆コンパ、パーペチュアル
3等 パソコンセット、リュックサック、豪華ランチ 4等 傘、おもちゃなど

街角フォトクイズ解答欄

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

アンケート
上記写真の建物の中で最もこの特徴を有すると思われるものを記号で記述してください。
写真及び特徴を記述してください。 街 建物 空地

大浜地区の路地についての感想や質問があればお便りに記載してください。